

Newspace

郡山東高校新聞 速報版75号

編集・発行
郡山東高等学校新聞部
発行人 矢内真由花
編集人 古川美羽
〒963-8832 福島県
郡山市山根町13-45
電話 024-932-0898
FAX 024-932-1404

入学おめでとう

今日晴れの入学式 2800名が東生に

郡山東高校の令和2年度入学式は今日8日、本校大体育館で行われ、2800名が入学した。狭き門をくぐり抜けた新入生は、新しい制服に身を包み、緊張した表情で入学式に臨んだ。

新入生2800名は今日8日午後、大体育館で行われた入学式に臨み、3年間の高校生活をスタートさせた。

入学式では、国家斉唱に続いて新入生全員が1人ずつクラス担任から呼名を受け、中野隆幸校長から入学許可を得た。

続いて、中野校長が式辞を述べ、来賓の佐藤圭裕PTA会長、津守千恵子同窓会会長らが新入生の入学を祝った。

新入生を代表して、郡山市立郡山第三中学校出身の佐藤叶夢さん(1年)

「成人年齢が引き下げられる私たちは、東高で学び、大人へと成長しなければなりません。その過程は複雑で、時に壁にぶつかり、悩み、挫折することもあると思いますが、仲間と励まし合いますが、仲間と励まし合いますが、先生方や先輩方のご指導を真摯に受け止め進路実現のために尽力することをここに誓います」と誓いの言葉を述べ、生徒会長の車田ほのかさん(3年)が「みなさんは、令和初の入学生です。そして高校入試が大きく変わった上に新型コロナウイルスの影響もあり大変な状況乗り越えてきた勇者のような新入生です。みなさんならきっと困難な場面も乗り越えることができます」と歓迎の言葉を述べ、入学式は幕を閉じた。入学式終了後、



↑誓いの言葉を述べる新入生代表の佐藤叶夢さん(4月8日午後2時 本校大体育館)

一年生の各クラス担任・学年担任らがステーションに上がり、新入生をはじめ保護者へ紹介された。新入生はその後、各教室で初めてのLHRに臨んだ。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、例年と比べ短縮されたものとなったが、無事に新入生を迎えることができた。

今年の受験倍率は特色選抜が1.5倍、一般入試が1.1倍。今年度から選抜方法が変更になり倍率は昨年よりも下がったものの厳しい状況となった。受験を乗り越え、新たに東生となった2800名の活躍が大いに期待される。(もなか)

「入学するみなさんへ」 新1学年主任 菅家洋平先生

とを教員一同、心待ちにしておりました。みなさんの夢の実現のために先生方は全力でサポートしていきます。みなさんは、本日、入学式を迎えたこの日の喜びと新鮮な気持ち忘れず、学業に部活動を

中野隆幸新校長に聞く 「縁の下の力持ちとしてサポートを」

今月1日に郡山東高校の新校長として、中野隆幸校長先生が県立安達高校から着任された。そこ



↑今後の方針について話す中野校長先生

「東高を今後どのようにしていきたいですか。」「学習面では生徒の毎日の学習を充実したものにしたいです。卒業時に生徒が希望の道に進めるよう手立てを整えていきます。部活動に関しては学生時代にしかできないことなので、勉強と両立させながら取り組めるようにしたいです。また新型コロナウイルスが流行している中で、想定外のこ

43名が国公立合格 東高の実力を発揮

令和元年度卒業生の進学者・就職者数(4月6日現在)は表の通りとなった。(表中の数字は延べ

令和元年度進学者・就職者		合格者数
四大	国公立	43
	私立	241
短大	公立	8
	私立	16
看護・医療		28
その他専門		33
就職		5

動にひたむきに打ち込み、そして何より精神的に自分自身を向上させていくことに全力を注いでください。全力で応援します。現代社会はかつてないほど先行きが読みにくい不確定・不透明な時代となっています。予想が難しい時代といってもよいでしょう。そのような中でも、またそのような時であるからこそ、確かな学力と冷静な判断力、そして何事にも動じない胆力が求められています。そのような生きる力を郡山東高校での3年間で培ってほしいと思います。ともに頑張ろう。

合格者 今後への期待に胸を膨らませる



↑緊張した様子で合格発表の看板を見る受験生と保護者

先月16日、東高正門玄関において令和2年度福島県立郡山東高等学校入学前期選抜合格発表が行われ、東高を受験した多くの中学生の中から東高の選抜入試における倍率は、前期選抜の一般入試が1.1倍、特色選抜が1.5倍となった。高入試を誇る東高の入試合格者は、今日から前期選抜を通過し合格を果した、郡山市立安積中学校の小林健真さん(当時中学3年)は「安心した。中学校では部活動を一生懸命に取り組んでいたのに、高校では大学受験に向けて勉強を頑張りたい」と決意を笑顔で語った。また、郡山市立第四中学校の相川花音さん(当時中学3年)は「勉強を頑張ってきたよかった。高校ではバドミントン部に所属し、勉強との両立を図りたい」と合格した喜びを今後に期待を胸を膨らませながら話した。そして、猪苗代町立猪苗代中学校の熊田あかねさん(当時中学3年)は「受かった実感が湧かないくらいとても驚いた。勉強と合唱の両立を頑張りたい」と意気込んだ。(そらちの妻)

国立大学は、毎年多くの合格者を出す福島大学をはじめとして、山形大学や新潟大学、公立大学は福島県立医科大学にも合格者を輩出し、国公立大学の合格者数は延べ43名となった。また、

大田看護専門学校などの専門学校にも多くの合格者を輩出し、進学校としての実力を発揮した。進学先・就職先の詳細は、平成30年度卒業生合格結果と共に、職員室そばの廊下に掲示されている。(彦飛)

1年前、郡山東高校に合格したときはとてもうれしかった。制服が引き、何度もネクタイを結ぶ練習をするうちに、本当に自分も高校生になるのだと実感した。しかし、入学の日が近づいてくると、あこがれていたはずの高校生活への不安も増えていった。一番不安を感じていたのは新しい友達を作ることができるとかということだった。クラスには同じ中学校出身だった人はいたが、まわりの席には知らない人しかいなかったため、話しかける勇気が出ず初日は話すことができなかった。同じ教室に40人もいる中で、ほとんどの人が誰とも話さない静かな雰囲気。気がとどろかした。次の日、勇気を出して隣の席の人に声をかけた。すると笑顔で答えてくれて話しかけてくれた。それがうれしくて、もっと他の人と話したいと思えるようになった。集会や移動教室で隣になった人、選択科目が同じだった人、きっかけが小さくても勇気を出して話しかけた。それからは、話しかけられることも増え、毎日が楽しくなってきた。『案ずるより産むが易し』ということわざには、心配しているも実際は困難はないという意味がある。このことわざのように、入学当初の私は不安を抱えていたが、実際にクラスの人と話してみると、明るくて優しい人は多かった。いつの間にか大きかった不安は消え、1年生としての生活が終わるところには、このクラスで過ごすことができて本当に良かったと心から思った。今日から私も2年生として新しい教室、新しいクラスメイトと学校生活を始める。不安を感じても心配しすぎる必要はない。不安な気持ちは、ほんの少しの勇気で変えることができる。(みなと)

新聞部員募集

新しいことを始めたい
文・写真に興味がある
青春したい人
初心者も体育会系も!
男女問わず大歓迎

私たちと一緒に
剣ではなくペンで
戦いませんか?

さあ君も運動部系文化部へ
▼マネージメントハウスまで
遊びに来てください!

